

駿河湾の深海魚 (17)

センハダカ (その1)

久保田 正 ・ 佐藤 武



図 1. センハダカ: 体長 39.5mm. 2003 年 12 月 15 日 . 三保海岸打ち上げ.

センハダカ (*Diaphus suborbitalis*) は、ハダカイワシ目、ハダカイワシ科魚類のハダカイワシ属の 1 種です。このハダカイワシ属には 30 種以上が含まれており、本科魚類中では大所帯の属の一つです。本種は、日本近海では福島沖、相模湾、駿河湾、熊野灘、鹿児島県沖の太平洋側や台湾の南東域などを含むインド・西太平洋の熱帯・亜熱帯の広い海域に分布する中深層性種の一つです。

本種は陸棚性で、本科魚類中では中型の大きさです。体長は約 60mm まで成長し、青味を帯びた黒褐色です (図 1)。特に眼の斜め下にある目立つ Vn (鼻部腹側発光器) は、本種の特徴であり、同定の際には目安となります。ハダカイワシ属の魚類の同定に際して目の周りにおける眼前発光器群は、重要な分類形質となっています。また本種の体側にある発光器に発光鱗 (Luminous scale) を有することは、日本近海に出現する本属魚類のなかでは本種だけに見られる大きい特徴となっています。特に PLO (胸部上部発光器) に付属するそれは大きく、VLO (腹鰭上部発光器)、SAO₃ (第 3 臀鰭上部発光器)、Pol (体側後部発光器)、Prec (尾鰭前部発光器) などの側線に近い発光器群にも付属しています。

駿河湾内では毎年春と秋の 2 シーズンにサクラエビ漁が行われています。この網にはサクラエビと混獲される深海生物も多く、特にハダカイワシ類が目立ち、中深層性の 13 種以上が入網します。主な種類は、イワハダカ、センハダカ、スイトウハダカ、ハダカイワシ、サガミハ

ダカ、ヒロハダカ、ホソトガリハダカ、ゴコウハダカなどです。また時には表層性のススキハダカ、アラハダカ、ウスハダカなども獲れます。特にセンハダカは季節や場所によって大量に混獲されることがあります。

本種は、Gilbert (1913) により駿河湾の三保沖から採集した個体をソコハダカ (本誌第 57・58 号参照) とともに *Diaphus glandlifer* の学名で新種として発表されました。この種の種小名のラテン語の意味は“発光腺 (鱗) を有する”であり、本種の発光器の特徴を表している命名です。現在この学名は、*Diaphus suborbitalis* Weber, 1913 の同種異名となって有効性は失われています。さらに両種が新種として発表された年号はいずれも 1913 年です。本種を発表した Weber の論文の方が Gilbert の論文よりも早く公表されたことが読み取れます。またセンハダカとは、この発光腺 (鱗) に因んで付けられた和名です。彼の論文に掲載されている本種の図を紹介します (図 2)。

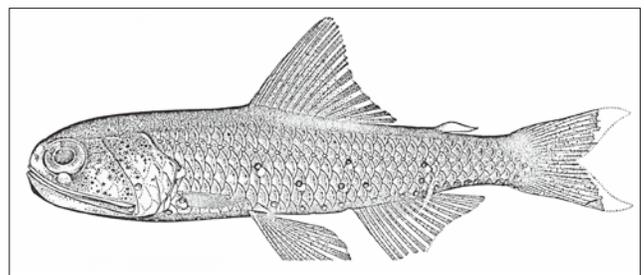


図 2. Gilbert, C. H. の論文に描かれたセンハダカ 駿河湾内で中層ネット約 550~0m から採集 体長 56mm: 発光器に付属する発光鱗に注目 (Gilbert, 1913 から引用)